

〔大宜見洋文議員 登壇〕

○ 4 番 大宜見洋文君 本日の一般質問初日、4 番手。通告書にしたがって 9 点質問をさせていただきます。その前に、1 点訂正があります。通告書 15 ページの大問 6 (2) 先行実施自治体の反省と課題の調査は行っているかについて、反省とを省き、先行自治体の課題の調査は行っているかに訂正をお願いします。

では、大問 1. 南風原町の教育方針にブレはないか。(1) 過去に教育委員会が主導した 2 学期制の評価と南風原町が 3 学期制継続を決めたことについて、南風原町教育委員会の見識を問う。(2) 町立小学校において運動会を 6 月に変更する根拠は何か。日程変更について、校区地域への説明はいつ、どこで行ったか。(3) 町立中学校のスポーツフェスタの平日開催の根拠は何か。日程変更について、校区地域への説明はいつ、どこで行ったか。(4) 翔南小学校伝統文化週間行事の縮小について、何が課題だったのか。日程縮小など変更する根拠と日程変更について、校区地域への説明は事前になされたのか。(5) 毎週一回朝の読み聞かせの時間が津嘉山小学校は町立の 4 小学校のなかで短い理由は何か。(6) 津嘉山小学校リコーダークラブの現状はどうなっているのか。町の予算で購入した楽器は、現在どう活用されているか。

大問 2. 町立小中学校児童生徒へのスマートフォン利用の時間制限を設けるべきではないか。(1) 町立小中学校の児童生徒のスマホ利用問題はあるか。(2) 課題解決に向けてスマホ利用の時間制限を設けるべきではないか。

大問 3. 子ども・子育て支援新制度の導入により、待機児童は改善されているか。(1) 幼稚園への 5 歳児の移動実績はどうか。(2) 待機児童解消への課題解決への今後の具体策はあるか。

大問 4. 町立図書館の運営方針について。(1) 図書館の運営方針は、子育て支援を努力目標としていると確認したが、その方針の根拠となる課題は何か。(2) 子育て支援での、具体的な施策はあるか。

大問 5. J A ファーマーズマーケット南風原「くがに市場」について。(1) 南風原町産農産物の販売量割合はどなっているのか。(2) 今後の販売量を増やすための改善計画はあるか。

大問 6. プレミアム商品券について問う。(1) 具体的な実施計画について問う。(2) 先行実地自治体の課題の調査は行っているか。

大問 7. M I C E への南風原町の取組について問う。(1) M I C E 建設が与那原町、西原町の東海岸エリアに決まったことに対する南風原町の今後の取組を問う。

大問 8. 第五次南風原町総合計画策定への行程表を再確認するが、どうなっているのか。

大問 9. はえばる町民大学について。(1) はえばる町民大学実施への進捗状況を問う。(2) 町内のさまざまな活動のリーダーや公共団体の事業とも絡めた講座を開設できないか。以上、9 点についてよろしくをお願いします。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 大宜見洋文議員の教育委員会に係わりますご質問にお答えします。質問事項1番の南風原町の教育方針にブレはないかのご質問でございますが、(1)町教育委員会は、2学期制について平成16年度に検討委員会を立ち上げ、検討の結果、2学期制を導入せず3学期制を継続しておりますので、2学期制の検証や評価などについてはいたしておりません。なお、3学期制の継続は、適切な判断だったと考えております。

(2)翔南小学校の運動会が6月28日に計画されておりますが、学校長に確認しましたところ、学校行事が2学期に集中しているため行事の平準化を図ったとのことでございます。日程変更については、平成26年度末のPTA役員会で承認を受け、4月に年間行事計画をPTA会員に配布したとのことでございます。(3)両中学校に確認しましたところ、南中の校内スポレクや南星中のスポーツフェスタは、例年7月に開催しておりましたが、熱中症等健康上の課題等により4月、5月の開催となったようです。しかし、4月、5月は授業参観やPTA総会等、日曜日に開催する行事、そして家庭訪問等時間を要する行事があり、日程の関係で平日開催となったとのことでございます。説明については、PTA役員会、PTA総会及び公文書等による説明を行ったとのことでございます。(4)学校に確認しましたところ、伝統文化週間の日程等での大きな変化はありません。ただし、今年度は学芸会を実施することから昨年度のような取組はできないようです。伝統文化週間の見直しについては、PTA役員会や学校評議員会において提案しております。今後、引き続き周知を図っていくとのことございました。(5)でございます。学校に確認しましたところ、昨年3学期から朝の会、朝学習、1時間開始の流れをスムーズにするために時間を短くしたとのことでございます。(6)津嘉山小リコーダークラブは、現在も活動しております。また、購入した楽器も1月の県大会、3月の全国大会を目指し日々の練習で活用しているとのことでございます。

質問事項2番、スマートフォンの利用に関するご質問でございますが、(1)他校とのトラブルなど町内でも児童生徒のスマホ利用問題はございます。(2)学校内でのスマホ利用については、基本的に禁止されています。家庭内での利用制限についてなど、学校外での利用についてPTA支部懇談会等で話し合い、スマホ利用に関する事項を取り決めるように提言をしております。さらに継続して児童生徒、保護者、教職員向けにスマホ利用に関する講習会を各学校及び町教育委員会主催で行ってまいります。

質問事項4番、町立図書館の運営方針に関するご質問でございます。(1)南風原町を担う子どもたちが健やかに成長するように、図書館の運営方針に子育て支援を掲げ特色ある図書館づくりを推進しています。課題は、子育て関係図書の実を充実を図ることと考えております。(2)乳児健診時ブックスタート事業として、絵本の配布等の継続や子育て関係図書の増冊計画に取り組んでいきたいと考えております。

質問事項9番、南風原町大学に関するご質問でございます。(1)南風原大学(仮称)につきましては、行政だけではなく住民と行政が一体となって進めていけるような人材育成の大学を目指し、今年度の実施計画で対応できるように努力してまいります。実施は、平成29年度を予定しております。(2)近隣市町村の状況も参考に関係課で調整して、議員ご要望の趣旨の講座が開設できるように検討してまいります。以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 引き続き、質問事項3点目の子ども・子育て支援新制度の導入により待機児童は改善されているか(1)についてお答えします。平成27年度の保育所入所手続きの期間において、幼稚園に移動した5歳児は71人です。(2)についてお答えします。待機児童解消に向けての具体策については、平成27年3月に策定した南風原子ども・子育て支援事業計画に沿って、保育所によっては分園、認可外保育園の認可化、小規模保育事業等を進めかつ幼稚園においては平成28年度から4歳児受け入れを開始することにより平成29年度までに待機児童の解消を図ってまいりたいと思います。

質問事項5点目、JAファーマーズマーケット南風原(くがに市場)についての(1)。現在の会員登録者数は630人で、町内在住者は322人で51パーセントとなっています。販売量の割合については、数値化していないとのこと。(2)についてです。農家所得の向上を含め南風原町産農作物の販売量を目的とする事業は、今議会の予算への計上されている高生産性農業用機械・施設導入事業や防虫防風ネットパイプ資材に対する補助等のように、本町でも以前から取り組んでおります。JAにおいても生産農家とともに年間をとおした品揃えや季節ごとの特色ある品揃えができるよう計画や指導を行っていただき、くがに市場を盛り上げていくものとその手腕に期待しております。

6点目のプレミアム商品券についてを問う(1)にお答えします。これまで県内6金融機関に対してプレミアム商品券の換金に対する強力について話し合いを行ってきましたが、現時点で承諾が得られず、商工会と計画を練り直す作業を行っております。現計画としましては、プレミアム率を20パーセントとして、商品券は額面1,000円の6枚綴りを5,000円で販売をする計画であります。商品券を5,000円で購入すると6,000円分の買い物ができ、大規模店と一般店で使える共通券と一般店のみで使用できる一般券との組み合わせによる商品券の販売を予定しております。(2)についてです。先行実施自治体の調査については、うるま市や恩納村などの先行自治体の調査を行っております。また、課題解決用として国や県より事業のQ&Aが提供されておりますのでその活用も行っております。

7点目のMICEへの町の取組について問う(1)についてです。今般、MICEの建設地が与那原町・西原町マリンタウン地区へ設定されましたが、当該施設の効果を本町のまちづくりにどのように有益なかたちで反映させていくのか、さまざまな面から検討してまいりたいと思います。

8 点目の第五次南風原町総合計画について（1）です。今年度より第四次総合計画の検証に取組、次年度に総括と第五次総合計画策定に重点を置いた取組を行う予定です。双方とも住民の皆さんの協力をいただいて、住民会議を立ち上げて協働で取り組んでまいりたいと思います。以上であります。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 答弁、ありがとうございます。今回の定例会、一般質問の議場に初めて出席されている宮里指導主事にもぜひ答弁の機会を与えて欲しいと P T A の皆さんからもリクエストがありましたので、ぜひ教育長のご配慮をよろしくお願いします。

それでは、再質問を一問一答でお願いします。大問 1 でまずこの趣旨として学校長が変わるとこれまでの学校行事や経営方針が全く変わってしまうというパターンを自分も経験して多くあります。それに結構、地域の人たちが振り回されて、2 年、3 年でやっと慣れたかなと思ったらまた人事異動で繰り返す。結局、新しく校長がいらしたときに変えられる部分、その前の年の課題が何だったのか、成果はどうなっているのか、そういう評価が地域住民になかなか伝わってこない。そうやって校長が変わってしまうことで行事が変わることが、町の教育委員会として教育方針がブレているのではないかと地域住民が不安を募らせる恐れがあると自分もかかわってみて感じています。せっかく地域ボランティア活動が盛り上がってきた気運を、1 人の校長が異動してきて壊す可能性があるのではないかと不安もあることから質問をしています。過去に県の教育委員会が主導した 2 学期制の評価と南風原町が 3 学期制を継続したことについての質問だったのですけれども、当時、2 学期制がブームになっていたにもかかわらず、南風原町教育委員会をはじめ関係者の英断によって 3 学期制を継続できたことは流行にブレずに保護者、地域住民の意見を尊重した南風原町の教育方針が非常に評価できることだと考えています。その方針を受けて、では現在どうなのかということで（2）です。この 6 月に運動会を変更する根拠は何かと確認しましたが、再答弁を受ける前に P T A の現役にも確認をしたところ、僕の調査が不足していたのか答弁では学校行事が 2 学期に集中しているため行事の平準化を図ったとの答弁でしたが、2 月、3 月ごろの説明ではプールの改修工事が必要でそれで 1 学期ではプールが使用できないので夏休みで修理を終わらせて 9 月にプール実施をやるからその 2 学期の行事を前に持ってくるという説明を受けたとのことでした。そのへんはどうなのでしょう。それから、続いて町立中学校のスポーツフェスタの件は、説明をいつどこで行ったかについてやはりこれも 4 月、5 月は授業参観や P T A 総会等の日曜日に開催する行事が多い、家庭訪問等にも支障を来すということですので、これだと次年度以降も平日開催となるのかどうかの確認をお願いしたいと思います。それから（4）の翔南小の伝統文化週間については…

○議長 宮城清政君 暫時休憩します。

休憩（午後 2 時 21 分）

再開（午後 2 時 21 分）

○議長 宮城清政君 再開します。

○4 番 大宜見洋文君 （4）の翔南小の伝統文化週間の縮小はないということですが、今度は学芸会もあるとして変更していますので、そのことが昨年度までの伝統文化週間についての P D C A、どうやって計画を立てて課題は何だったのかそういう話の評価はどうなっているのかを聞きたいと思います。（5）津嘉山小学校の件ですが、4 小学校中、読み聞かせの時間が 15 分から 10 分に短縮されています。他の小学校と時間割の何が違うのか。短くしなければならない理由をボランティアの皆さんに説明が十分なされていないような感じを受けますのでこの辺についてはどうなのか。ここ最近、読み聞かせ、読み語り創造力や言語能力を高め感情豊かになるなどの効果がネットでも明らかになってきているなかで 5 分間削る理由がそういうことでいいのかどうか、現場に余裕がないのではないかと危惧しています。（6）この質問を出したのは、津嘉山小学校の保護者からリコーダークラブの部員数が減っていること、またそれが原因で南星中の吹奏楽部の部員がなかなか増えていないという話が聞こえてきていましたのでこの質問をしました。答弁を聞いて、取り敢えず現状は大丈夫だということだったので今後の活躍が楽しみです。取り敢えずこの 6 点について。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 再質問にお答えいたします。大問としては南風原町の教育方針にブレはないかということで、学校現場の授業等の対応についてのご質問でございます。最初の翔南小学校の運動会の件について議員からの質疑は、プールの改修があつてずれたと学校から説明があつたということです。確かに翔南小学校はプール周辺の工事をする予定がございます。そういった関連も確かにあるのではないかと、そこには記してございませんが、それと併せて行事の標準化として調整をしてそういったかたちで運動会が今月末に開催されるということだと認識しております。それから、スポーツフェスタにつきましては、それも最初の答弁でございますように、学校に確認をいたしましたら、熱中症であつたりそういったものを含めて学校行事の部分で平日に行ったとのごことでございます。学校の年間をとおしての事業、学校経営の中での選択だと考えております。それについては、新しい年度での行事日程等も各保護者まで行くと思いますので、連絡はいつているものだと確認しております。それから、翔南小学校の伝統文化週間の昨年までの評価等も含めての変更かということでございます。それについては、校長先生、学校のスタッフ中心に、学校経営の方針が各学校ともありますので、それに向けて伝統文化週間の時期的なも

のを少し縮小するのか、それから今回から去年行っていなかった学芸会を今度入れると、去年は伝統文化週間に学芸会も含めてということでその中で空手の演舞だったり子どもたちの演技だったりありましたので合算してのことだったと思います。今回は、独自に学芸会としてもつとのございますので、これも学校の方針で学校長を中心に学校で年間の行事の確認でそのようになっていると思います。それについては、当然、保護者もその変更については説明が必要だと理解しております。それから津嘉山小学校の読み聞かせが他校に比べて時間が少なくなっているとのことですが、これも学校全体で読み聞かせと就学と言いますか、朝の会であったり朝の学習、それから 1 校時目の授業開始等も含めて全体で考えて読み聞かせの時間を少し短くしたとのことですが、これも学校としては学習等を優先したというようなことだと考えております。それから津嘉山小学校のリコーダーについては、確かにそこには高額な楽器が入っております。全国大会出場も含めて。そのように、リコーダーも活躍していますのでそのまま継続して使っていただくというようなことで考えております。以上です。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ありがとうございます。以上のすべての疑問については、やはり課題解決への対応が授業時間日数にばかり目が向いている県の教育委員会の意向に沿い過ぎていないかと不安です。やはり南風原町としてどういう育て方をするのか、待ってあげると言うのですか、詰め込むという教育よりも子どもの自主的な成長を促すような教育にってもらいたいので、5 分とか 10 分短くしたら効率が上がるとかそういう方向に行くよりもやはり豊かな表現力とかそういう方向にぜひ向かって欲しい気持ちで今回質問しました。今後も住民に確認して、次回も質問していきたいと思ひます。では次に進みます。

大問 2. スマートフォンの件ですが、他校とのトラブルなど問題があると確認しましたので、次にでは今後どうしていくのかの方向性ですけれども、愛知県の刈谷市で昨年度の取組で午後 9 時以降は親が預かる、あくまでも任意ということですが、その取組が全国に広がっていて結構良い効果を上げているとのこと。親としてはなかなか自分の子どもに言っても聞かないということなので、できれば行政側に主導してもらえないかというのが僕も高校生の息子がいるのですがその P T A、保護者の意見もそういうものでありました。取り組んでもらえるかどうか、もう一度答弁をお願いしたいと思ひます。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 スマホの件につきましては、昨今、新聞報道でも特集的に取り上げたところもありますし、学校現場でもそういった問題は多々あるとのことですが、教育委員会としても県内での他市、他町あたりでも取組があるようですので、それも

含めて検討して、スマホの使い方についてはどういったことをしましょうというかたちの、学校での決まりみたいな感じのものを各家庭に配布していますのでそういったことも含めて今後検討してまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 では、期待していますのでよろしくお願いします。続いて大問3に入ります。子育て新支援制度の導入により、待機児童解消は改善されているかの件です。現在、71名。この数字に関して、平成29年度の見直しがあるとのことで進めていくなかで、現在の数字はどう評価したらいいのか答弁をお願いします。順調なのか、まだ足りないのか、うまくいっているのか、平成29年度に向けての段階的な面でということですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。今年の4月、保育園から幼稚園に移行したこの71名についてですが、これはあくまで5歳児のみでございます。ですから、次年度から4歳児も始まりますので、平成29年度に向けての幼稚園が拡充したことによる影響等は今後出てくると思います。そのあたりの評価については、次年度以降になってくるものと思います。ただ、土曜預かりとかそういった幼稚園が拡充している部分もありますので、昨年に比べると多くいった部分はあるかと思いますが、そこまではまだ分析はしておりません。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。始まったばかりなのでこれからだと思いますが、ではその次に待機児童解消の課題解決への今後の具体策はあるかで、那覇市も最近新聞に載っていましたが、糸満市でも始まっていて、中城村でも始まっていると情報を聞きましたので、認定こども園についての勉強と言いますか、南風原町も今後そういう方向に向かうのかどうか。この件も想定しているのかどうか。午前中の大城議員、花城議員の質問にも関連してきますが、その再確認をしたいと思います。平成29年度で見直すという答弁がありました。その時点でもしも那覇市が進めているように認定こども園の方向に向かうことがあるのであれば今後想定している本務職員の4名、9名の採用にもちょっと影響してくるのではないかと思いますので答弁をお願いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 認定こども園についてということですが、本町は待機児童の解

消に向けても新しい制度、子ども・子育て支援事業計画に沿って進めているところですが、この計画自体が幼児期の教育、そして保育環境、地域での子育て支援とかすべての子育て過程に配慮して、安心して子供を生み育てることのできる南風原町にしていこうという計画でございます。そういうなかで待機児童の解消も含まれてやっていくと。そういう目標に向かって進んでいくときに、認定こども園については当然検討していく課題であります。新聞報道でもありましたように、那覇市も36園の市立幼稚園をすべて認定こども園にしていくというような方針を出しております。本町においても、この子ども・子育て支援事業計画に沿って取組を進めていきながら、そのなかで本町に合う、本町に適合するような認定こども園とはどういうものがあるかしっかり教育委員会と連携して調査研究に取り組んでいきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ぜひ連携して進めていただきたいと思っております。どこが主体になるのかとても興味があって、教育委員会の管轄の敷地で民生部が管轄するのか、そうなるくと学童も少し変わってくるのかなという期待もありまして今後の取組を待っています。よろしくをお願いします。

では次に、大問4です。町立図書館の今後の運営方針について。まずは(1)で質問がありますが、特色ある図書館を推進しているということで、課題は子育て関係の図書の充実を図るとあります。特色ある図書館ということで、子育て支援でどういう特色が出るのか具体的に知りたいということと、その子育て関係の図書の充実という要望が多いのかその根拠となる数字、アンケートでもあったのか確認をしたいと思っております。よろしくをお願いします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 図書館の方針ですが、南風原町の図書館はこれまでも図書館協議会のなかで話し合われたのは、子育て支援関係に向けて充実をしていこうというような方針等もあるようですので、それに向けて取り組んでいくということでもあります。そして、そのためには図書の充実が必要だろうということで、幼児のコーナーがありますのでその充実等含めて取り組んでいくというような考え方を持っています。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 なかなか分かり難いと言いますか、では何冊増えたら充実したことになるのか、このへんもなかなか見えなくて。増やすのも大事ですけども、子育て中

の両親というのは共働きも増えていて、土曜日も預けたいというぐらいかなり忙しい。そのなかで本を増やすことだけが支援になるのか。それも大事ですけれども、子どもたちに読んでくれるボランティアの皆さんを育成するとか、そういうことも必要ではないかと思うのです。そのへんについてはどう考えていますか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 図書館の方針のなかには、施策的には乳幼児の健診あたりでブックスタート事業という、小さいときから本に関心を持ってもらおうという事業を行っております。議員から指摘がありましたように、読み聞かせボランティアあたりも充実してはとありましたので、取り組めるのかどうか調査研究して事業的にできるか内部で検討してみたいと思います。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 小中学校の読み聞かせボランティアの皆さんもかなり増えてきていまして、その日の朝に行っても入れないという状況も出てきていますので、満足にボランティアができないという欲求も結構溜まってきていると思います。そういう方たちのエネルギーをまた他に使えるようなそういう仕組みをぜひやってもらえたらと思いますので、今後期待しています。

では次にいきます。大問 5 の J A ファーマーズマーケット南風原店くがに市場について、会員が 630 名で町内在住者が 320 名で 51 パーセント。最初のオープンのころは、津嘉山カボチャ、南風原カボチャもいっぱいあって、ものすごく活気があるなど、南風原のファーマーズだなと感じたのですけれども、最近行って見て、農産物が端境期になってきているのか町内産よりも県外産が多くなってきているのとプラス町外のも多いという課題、間に合わなかったと言えれば残念なのですけれども、今後、取り組んでもらうためには町としても誘致した立場上いろいろ支援していかなければいけないのではないかという思いで今回の質問をしています。南風原町民以外にも町外からお客様が来て、町内産の農産物を満足に購入していただけるように今後もぜひ魅力ある商品づくりを町にも支援していただいて、商工連携で商工会にもつなぎながら展開していただきたいと思うのですが、そのへんは施策的にどのようなものがあるのか教えてもらえれば助かります。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 先ほど答弁いたしました販売量を増やす一つの手立てとして、いろいろな事業を導入しております。例えばハウスの導入、葉野菜関係を増やすた

めに防虫防風ネットのパイプ資材の補助等、そういったものの補助をはじめまして増産の体制を整えていこうとやっております。引き続き、今後もそういった事業や、またその販売するものができて店頭にも置いて買っていただくお客さんが少なければその分売れ残りますので、行政としましては交通アクセスの利便性も向上させるために引き続き周辺町道の整備も今年度から津嘉山 1 番地に向けての町道整備の実施設計も行っております、いろんな方面からバックアップできればと考えております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ありがとうございます。一括交付金を使っての商工会のものづくりも事業が続けられるとのことなので、そのタイアップもぜひ、また今回、去った日曜日でしたかイベントがあったようにあのようにもっと交流するような施策は今後あるのでしょうか。確認をしたいと思います。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城郡浩君 お答えします。先日の日曜日、商工会の日で農産物、それから緋のグッズなども一緒にお配りをして、いろいろ町内の産物を振興していただくということでの PR 活動がありましたが、商工連携部分での六次化ということで、農業のほうでも、それから商工のほうでも六次化の事業を進めています。小中学校でも食育をやっていただいたり、山川など生活改善グループ等にレシピ等を作っていただいて、それをファーマーズで試食していただくとかいろいろなものが展開されています。今後も一括交付金とか県の事業等を活用しながら、そのへんの連携等は今後も強化していきたいということで施策もまたいろいろと考えております。具体的に言いますと、今の施策以外にも町単費で、先ほど部長からもありましたが、軟弱野菜をどのように取り組めばいいのかということで婦連協という事業の中でもいろいろ視察だとか勉強会だとか含めて事業の展開を考えております。今後ともご期待をいただきたいと思います。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ありがとうございました。楽しみにしています。

次に、質問 6 です。プレミアム商品券の件ですが、現時点で承諾がいただけていないということで、今一進んでいない感じがしますが、沖縄市、那覇市などでも実施の PR が新聞報道に出始めています。ただ、この中身を聞くと中間マージンで手数料が高いとなるとなかなか魅力的ではなくなってくると、町としてそれでも取り組むのか、止めようかという方向にはいかないのか。やるのですか。もう一度確認したいと思います。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城郡浩君 プレミアム商品券については、先ほど答弁があったよう、実際の換金等の面で銀行との手続きが要するというので、なかなかスタートが切れていない状態にあるのですけれども、先ほどいろいろな課題があってもやっていくのかということで、実際に予算としても計上していますし国の施策としても経済的な喚起を促すということでとても大切な事業となっています。南風原町としても町経済の活性ということで、非常に難しい事業ではあるのですができるだけ町内の小さい事業所も含めてもっと経済を活性化することができればという期待を持っている事業ですので、今後ともこちらで効果率を高める方法をいろいろ考えていきながら実施していきたいと思えます。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 昨日、八重瀬町の友人から聞いた話だったので、正確かどうか分からないのですが、向こうは金融機関を通さずに換金についても町と商工会がタイアップして進めていく、と聞いたのですが、そういう場合も想定されますか。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城郡浩君 今のご質問は、商品券のほうの販売と換金ということの部分で聞かれていると思うのですけれども、換金につきましては、本来であれば沖縄県全県下、金融機関を通してやるという方針がありました。その方針の1つには、換金の手数料と振り込みの手数料がどうしても事務費として発生します。各店舗で商品券を使って物を販売したあと、その商品券を現金に換える必要があります。その現金に換える必要があるときに、いかにスピーディーに現金をその事業所に換金してあげるか、それから、換金の際に手数料としてその中からその費用を計上してしまいますと、実際の売上が目減りしてしまうという問題が発生します。そのへんをどうするかの問題がありまして、どうしても銀行への振込などを通さなければいけないということでやっております。実際、銀行を通さずに役場もしくは商工会でカウントして換金をする手法も現在検討しております。最近いろいろ検討しているのは計数器、それから窓口が小さいと込み合ってしまうかというような課題等もありますので南風原町であれば4カ所の銀行を使って窓口を分散したりということで銀行等も考えていたのですけれども、どうしても銀行の協力が得られないということであれば先ほどおっしゃっていたように商工会と役場が窓口になって換金作業をしていくスキームも検討しております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 結構ハードルが高いようなので、住民にとって本当に効果的な換金率と言うのですか、透過率ですか、ぜひいくようにお願いしたいと思います。

では、次に行きます。7. MICEの取組についてですけれども、どのように有益なまちづくりに反映させていくか検証していくとのことなのですけれども、自分の考えとしてはそもそも方向性と言うのですか、もっと南風原町としての主体性が欲しいと言いますか、南風原町に住んでいる住民が南風原町に住んで楽しい、そういう魅力のある町だと思える状況にしていくことがMICEに来たお客さんたちを南風原町に招く、行ってみたいと思える効果が得られるのではないかと。そこがまず先に来るのではないかとということから、今結構話題になっている那覇空港からMICEまでの移動手段、LRTやBRT、鉄軌道、そういう大量輸送手段の取組で県や国、他の自治体でも世論喚起にさまざまな情報発信が見受けられている状況ですが、これまで自分が県外視察や勉強会などで公共交通について学んだことは、大量輸送、定期輸送も含めて公共交通とは福祉政策ということですね。そうであればまずやらなければいけないことが、大量輸送手段で生ずる路線エリアだけの住民だけが利益を得られる施策ではなくて、全県民が平等に利益を得られるような施策が先に来るのではないかと。そうすると、公共交通手段である今は公共バスの運賃を無料にして、その次に大量輸送についてどうするべきかを考えるのが正しいプロセスではないかと考えていますが、町としてはどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 ご質問ではMICEとあるのですけれども、公共交通機関を無料にという部分を切り取ってお答えさせていただくのであれば、以前にもありましたこれはコミュニティバスも含めて考えて答弁させていただくのであれば、本町の優先順位と言いますか意外と公共交通機関、コミュニティバスというのも予算が非常に多額にかかっているのが事実です。それとは裏腹に、意外と利用者が少ないというのも調べたところ実際あるようです。本町は、ご承知のとおり町域も10キロ平方メートルということで、役場を中心としたエリアからも極端には離れていない。交通の利便性も良いということがございます。ですから、今の時点では、LRTや鉄軌道といったのもあるのですが、それへつなぐと言いますか、それはそれで別の観点で考えるべきではないかと。予算も相当かかるわけですので、行政課題の順位からしたら喫緊の課題ではないのではなかろうかと考えています。やはり、本題のMICEの活用について、MICEはあくまで箱モノでございまして、そこにどういったイベントをもってくるのか、もってきた人をうちの町へどう呼び込むかでございますが、それはご質問のとおり魅力ある町でなければ人は来ないというでありますので、そこはそこで別の課題と言いますか、どう南風原に来させるかについ

て検討していくべきだと思います。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 まず、無料化をしたらそのためのバスに経費がかかるという指摘について、例えば無料化をした場合、交通費の支給は要らなくなるのではなか。例えば職員の皆さんの交通費は出さなくていいと、無料だからバスに乗って来てください。そこでどれぐらいいくのか。それを町内の企業にも賛同してもらって、それでどれぐらい予算に回していけるのか。このへんまで考えてもらって、これが南風原町でうまくいくのであれば他にも普及していくのではないかという視点もあったものですから、ぜひ調査してもらいたいと思いました。無料になるとお金を持っているお年寄りの皆さんもあちこち行きたくなるのではないかと、相乗効果も出てくるのではないかという期待もありますので、ぜひちょっと違った視点からも試算してみるようなこともお願いしたいのですがいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 職員の通勤手当というのが、役場から 2 キロ以上離れている職員に支給ですので、これを比較するととんでもない差が出ます。こういった経済的な効果はまず見込めない。あとは、実際にイオン南風原店が首里駅までピストン運行でお客様を運んでいただいておりますが、それぐらいの力がある企業と言いますか、全国的に大型店舗を展開している企業はそういったこともなせる体力があると思っております。町内の他の業者さんにそのへんをうまく活用させてもらう、これの頻度はどの程度になるのか、そのへんもかなり大きなハードルがあると思います。ですから、先ほどの答弁と同じようになるのですけれども、お金を持っているお年寄りであればはたまた巡ってくる次の便のバスを待つより時間を金で買うのではなからうかというような発想もできます。そういったことも含めまして、近くにご家族もいると、そこまでちょこっと乗せてくれとかもしくは意外と近くにコンビニもスーパーもあるというそういった本町のいろいろな利便性を考えますと、やはりこのご質問についてはまだ喫緊の課題ではないのではなからうかと考えています。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 今、南部広域でも職員のセミナー等でこういう公共交通の研究もしていますので、自分もいろいろ勉強しながら進めていきたいと思っておりますので、また次もよろしく申し上げます。

続いて、第五次総合計画について。策定への行程が若干ずれているのかなという、本年度で課題などをやる話だったかと思いますが、次年度に向けてとなっています。政府のほうから地方版総合戦略を今年度中で策定を求められているという情報も得ましたので、後回しになる恐れもあるのかと心配もあり質問しました。もう一度、大丈夫なのか、どうなっているのかお伺いします。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 地域版まち・ひと・しごと創生についての計画です。これはまた今年度、町民から募った委員、それから庁内の委員とともに策定していく予定ですので進めています。これは今年度中に仕上げていく予定です。総合計画につきましては、第四次を今年度から検証を始めて、総括を次年度。次年度はまた第五次、新たな総合計画の策定となります。総合計画は、当然町の最高の計画でございます。しかし、先ほどの総合戦略についてはどうしても人口をどう増やすかもしくはキープしていくか、町に働く場を設ける、子育ての支援、主にこれが主眼となった計画です。この人口の推計や目標人口などは当然この総合戦略で用いたものを総合計画に使いますが、この総合戦略が今年度策定されることで総合計画が後回しになることはございませんのでご安心いただきたいと思えます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。第五次の総合計画の準備会議も、その前に進めていく地方版総合戦略の意義もいろいろ調べてみますと住民からしっかりニーズを抽出して住民会議のような場がやはり総合戦略にも必要だと部長がおっしゃったようにその活動に関わった住民が将来南風原町を担う若者にさまざまな気付きを与えることができるということがネットでも評価が出てきております。この流れを次の総合計画につなげていくようにぜひお願いします。

続いて最後の質問、南風原町民大学です。本年度で実施計画案、実施が平成29年度となるということで、1年空くのはどうしてなのか素朴な質問ですがお願いします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 答えいたします。実施計画に上げて検討していくというかたちですので、本年度の実施計画は平成29年からの計画になります。それに合わせていくことで1年間は空いてしまうこととなります。その間、計画を練って実施に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ぜひ早めに進めていただきたいと思います。(2)のさまざまな活動のリーダーや公共団体の事業等も絡めた講座を開設して欲しい件ですが、先日、勝議員に誘われて兼城公民館の自主活動をしている体操のサークルに体験入部してきました。全く使っていない筋肉だったのか、15分も運動しなかったのですが翌日は筋肉痛でしたので、ちょっとなめていたなという、やはりこういう運動も大切だなと実感しました。そこにかかわっている講師が、やはり県でも有名な「かりゆし大学校」の講師をされていたりしているという情報も得まして、こういう人材が町内に隠れているのかと思ったら、もったいないということでぜひ今後の南風原大学にも生かしてもらいたいという、以上で私の質問を終わります。